

曾東大橋→喜撰山大橋→宵待橋→天ガ瀬ダム→中の島→平等院→宇治橋

コースガイド

このエリアは、前半は車道沿いの道を進み、後半は名所旧跡の多い宇治をめぐるコースとなる。

曾東大橋から大津南郷宇治線をひたすら歩く。曾東大橋から天ガ瀬までは、歩道がない上に、交通量も多く、注意が必要だ。途中の喜撰山大橋・大峰橋共に行き止まりになっているので、やはり大津南郷宇治線歩くしかない。

大峰橋を過ぎ少し行くと、左手に「かんばやし」という喫茶・古美術の店がある。ここまで店は一切無く、この先も天ガ瀬まではないので、一休みするにはちょうど良いところだ。軽い食事もできる。

宵待橋を渡ると丁字路になっており、左手はお茶の産地宇治田原への道となる。「奥山に紅葉あみわけ鳴く鹿の……」の 노래で知られる猿丸太夫を祀った猿丸神社、現在の緑茶をみ出した永谷宗円生家などを見ることが出来る。ここでは道を右手に進み、天ガ瀬ダムまで一気に進む。やがて、鳳凰湖と呼ばれるダム湖の向こうに、落差73mの大きなダムが現れる。ダムの対岸の山手には、天ガ瀬森林公園があり、ここが入口となっている。森林公園の展望台からは天ガ瀬ダムはもちろん宇治川を一望できる。

ここから道は3方向に分かれる。同じく大津南郷宇治線を行く車道

と、川沿いの道へと下る道、さらに

ダムの下へと下りていき白虹橋を渡る道だ。大津南郷宇治線は交通量が多いのであまりおすすめできない。また、左岸を川沿いに進む道は、現在工事中（平成14年2月現在）であるため、今回は白虹橋を渡り、右岸に行く。

ダムを右手に見ながら白虹橋を渡ると、すぐに志津川への道と宇治への道との分岐がある。志津川は茶畑なども見られる静かな集落だ。

左の道を取り、宇治へと向かう。雑木林や桜並木が続くアスファルト道だが、交通量も少なく、歩きやすい。天ガ瀬吊り橋から再び左岸へ渡ることも可能だ。左岸を歩いていく場合はここで右岸へ渡ることをおすすめする。

左岸には鵜飼いの船や店、旅館などが並びはじめ、いよいよ宇治の中心部へと足を踏み入れる。

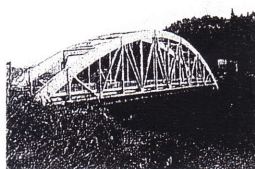
宇治は、世界遺産に登録されている平等院や宇治上神社をはじめ、名所・旧跡がいたるところにあり、それらを回るだけでも充分にウォーキングが楽しめる。特に、源氏物語の宇治十帖ゆかりの古蹟めぐりは、平安時代の雅をしのびながら歩ける格好の散策ルートとなっている。

喫茶はもちろん、食事処にも事欠かないので、宇治茶と茶団子で一服して次のエリアにそなえたい。

周辺ガイド

曾東大橋

この付近は流れが急なため、江戸時代から両岸に張った縄を手繰る繰り船が、対岸の山城国笠取方面への渡し船に利用されてきた。



昭和39年、天ガ瀬ダムの完成によって渡し場は無くなり、現在のアーチ式の橋が架けられた。

喫茶かんばやし

大津南郷宇治線沿いにある店。骨董品をメインで扱っているが、喫茶、軽食もいただける。



コーヒー350円、そば定食・うどん定食1000円など。11時30分～16時、金曜休。☎077・488・3684

天ガ瀬ダム・天ガ瀬森林公園

昭和39年に完成した、落差73m、総貯水量は甲子園球場の約70杯分という大型ダム。

天ガ瀬森林公園の入口にもなっている。

おり、四季折々の自然にふれながら、周囲約5km、3km、2kmの散策コースを楽しむことができる。

亀石

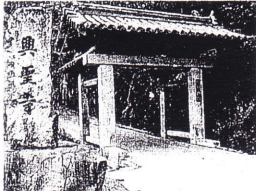
垂仁天皇が宇治郡大國郷に美女がいると聞き向かう途中、川の中から大きな亀が現れたので、矛でその



亀を刺したところたちまち石に変わった、といういわれのある石。瑞兆の印と喜んだ天皇は、その美女を後宮に迎えたといわれる。興聖寺のやや上手、宇治川右岸沿いにある。

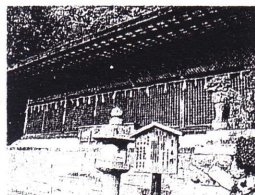
興聖寺

宇治川沿いに立つ山門をくぐり、琴坂と呼ばれる200mほどの参道を上る。両側には桜やカエデの樹木が連なり、4月下旬にはそれらの大樹の足元にヤマブキが咲いて春の色を添える。



宇治上神社

日本最古の神社建築で世界遺産登録。本殿は藤原時代の一間社流造りで国宝。拝殿は宇治離宮の遺構と伝えられる寝殿造り風。境内には宇治七名水の一つ桐原水が、今も湧き出ている。8～16時30分。

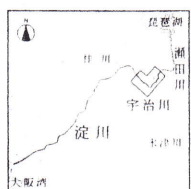
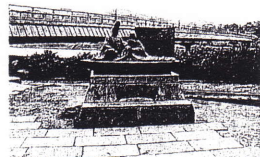


宇治神社

応神天皇の皇子、宇治の名の由来である菟道稚郎子の宮居跡。宇治上神社の旧下社でもある。木造狛犬などの文化財が伝わる。

朝霧橋

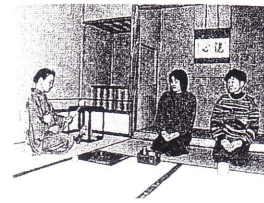
宇治神社の前、中の島へ架かる朱塗りの橋。右岸沿いのたもとには、市内に点在する源氏物語「宇治十帖」を象徴する宇治十帖ミニユメントがある。ヒロイン浮舟と匂宮が小舟で宇治川に漕ぎ出す場面をモチーフにしたもので、情緒たつぷり。記念撮影には最適。



観光センター・市営茶室対鳳庵

宇治川沿いにあり、観光情報はもちろん、無料の宇治茶サービスがあり、休憩に最適。

隣の対鳳庵では、茶道連盟の先生などによる本格的なお点前と季節の和菓子が気軽に楽しめる。10時、12月21日、1月14日、16時、500円。



平等院

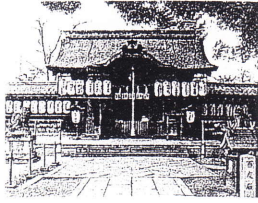
光源氏のモデルといわれる源融の別荘を、藤原道長が譲り受け、その子頼道が開創したもの。

極楽浄土をイメージして造られた阿弥陀堂は、翼廊が左右に伸びた姿が鳳凰に似ていること、大棟に鳳凰を乗せていることから鳳凰堂の名で知られる。

鳳翔館では、堂内の再現映像や国宝の数々を見ることが出来る。8時30分、17時30分（鳳翔館は9時17時、600円）。

県神社

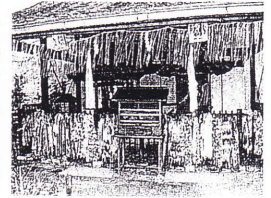
木花咲耶姫を祀る縁結びの神社。木花咲耶姫はサクらの語源でもあり、県神社の社紋もサクラとなっている。



平等院の総鎮守社。6月5、6日に行われる県祭は闇夜の奇祭として有名。

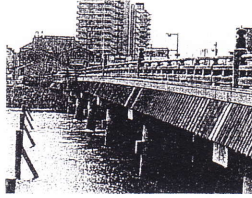
橋姫神社

橋の守り神である橋姫を祀る神社。県神社に対して縁切りの神として知られる。はじめは宇治橋に祀られていたといわれるが、現在、境内には水の神である住吉神社が並んで祀られている。数々の伝承を生み出している神社。



宇治橋

山崎橋・瀬田の唐橋と共に古代三大橋の一つ。大化2年に奈良元興寺の僧、道登によって架けられたと伝わる。現在の橋は1996年に完成したもの。上流部に張り出す「三の間」は豊臣秀吉が茶の湯に使う水を汲ませたところといわれる。



源氏物語ミュージアム

平成10年オープン。源氏物語をテーマにしたミュージアム。六条院の100分の1復元模型や映像などで、宇治十帖の世界を知ることが出来る。源氏物語に親しむコーナーでは、クイズやゲームなどを通して楽しく学ぶことができる。9時16時30分、月曜休、500円。

三室戸寺

西国三十三所第10番札所。境内

には室町期建築の十八神社が立つ。また、源氏物語浮舟の供養塔もあり、訪れる人も多い。アジサイの名所。

交通

起点・JRまたは京阪石山駅から京阪バス大石小学校行き大石小学校下車、曾束行きに乗り換え曾束下車、徒歩10分（曾束行きのバスは本数が少ないので要注意）
途中から「ガーデンス天ガ瀬」で京阪宇治交通バス京阪宇治行きでエネオーブ可。ゆ止
終点・京阪宇治駅またはJR宇治駅まで徒歩5分

問い合わせ

京阪バス大津営業所 ☎077・531・2121

